

水害

写真で見る図書館③

一年ほど前の2005年9月4日(日曜日)の深夜、台風14号の影響で豪雨をもたらす雲が首都圏に発生。一時間に100ミリを超える猛烈な雨の中、練馬区立南大泉図書館が冠水した周辺道路から浸水。半地下の一階部分に床上85センチメートル前後の雨水が滞留し3万点以上の蔵書が被害を受けた。当時の被害状況を、南大泉図書館の山川正之氏の手記と写真とおもにお伝えする。

被害を受けた翌々日、コミュニティホールに集められた蔵書。被害は一般図書20,638点、児童図書10,393点にのぼった



被災後、翌々日(9/6)のエントランスの状態



被害を受けた翌日(9/5)、入り口付近に積み上げられた濡れた蔵書



被災後約1週間後の玄関前広場



現在のエントランス。
写真左の植え込みは花壇を兼ねた止水壁となっている

●データ

▼南大泉図書館データ

- 所在地：東京都練馬区南大泉1-44-7
- 開館：1993年6月
- 施設規模：鉄筋コンクリート地上2階建。南大泉青少年館と併設。1階部分が図書館。図書館部分延床面積711平方メートル
- 職員体制：15名
- アクセス：西武池袋線保谷駅、徒歩10分(駐車場なし)
- 練馬区立図書館では一番規模の小さな図書館ながら、貸出数は区内で上位。青少年館と併設のため青少年サービスを充実させている。住宅街の中にあるため徒歩または自転車での来館が中心で比較的近隣の利用が多い。蔵書数8万8,000冊(05年3月末)。05年度個人貸出点数49万8,331点。05年度予算額1,462万5,000円。

●被害状況

▼蔵書数と被害状況

- 全資料合計99,529点中33,494点
- 一般図書 67,082点中20,638点
- 児童図書 21,274点中10,393点
- 紙芝居 1,147点中687点
- CD・ビデオ 6,779点中1,310点
- 雑誌・その他 3,247点中466点

▼施設の被害状況

- 自動ドア(倒壊)
- エレベーター(モーター、ケーブル、基板)
- パソコン・端末機(21台全損)
- 電話機・FAX
- 壁面・床面

資料提供◎山川正之(練馬区立南大泉図書館)
構成◎坂部重久



ぎつめに詰めていた書架では本が水分をふくんで膨張し抜き取れないようになっており、書架を壊さざるを得ない場合や、膨張した書籍が書架を壊しているところもあった

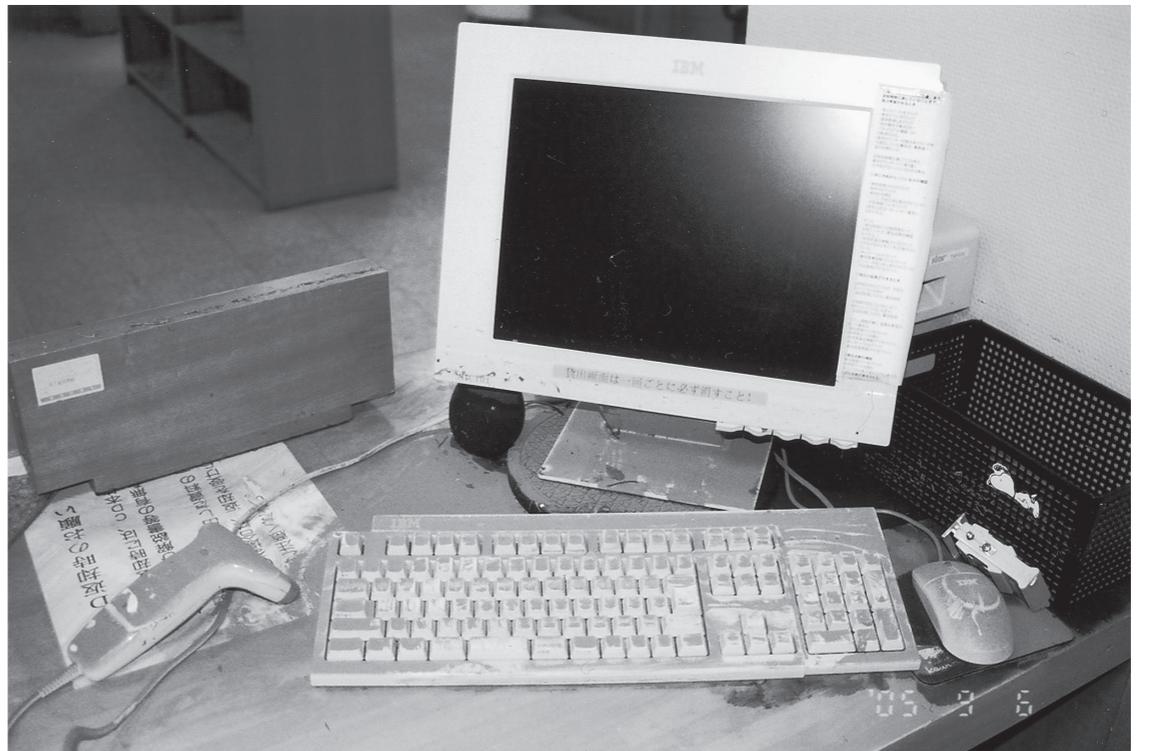


棚の設置された裏の壁が変色したうえ、一面にカビのような黒いしみがついている



いようにするため。カウンターにあったペン立てなどが、一番遠い場所にある児童コーナーの棚のところまで流れついている。水の力がすこかったことがわかる。どこから流れてきたのか、イガイガのついた栗の実がフロアに転がっていた。トイレの床にも多数の図書、和式の便器に向かって図書の帯ができていた。水が流れる場所を求めて大きな力を作り出したことがわかる。順次、電気・エレベーター・自動ドア・電話その他の業者が到着、とりあえずの復旧作業に入る。午後からはトイレが使えるようになる。それまでは、すぐ近くにあるファミリーマートに借りに行く状態だった。電話は夕方に2回線のみつながるようになる。エレベーターシャフトには大量の水がたまっていて、ポンプで水を抜く作業に入る。

区長・教育長・生涯学習部長の視察あり。土木・営繕その他各部・課からの職員も到着し、被害状況の把握と、復旧作業に入る。書架に残っていた本も下ろす段は壊滅的状态というか、泥水にまみれ、完全に資料として使用不可能な状態になっている。とりあえず午後からはコミュニティホールに積み上げていくことにした。書架



床上85センチメートルにも達する雨水が館内を満たし、カウンター上にあった管理端末を含め電子機器が全損

館に到着。光が丘図書館長や他館の館長・主査など応援の職員が来ている。午前中には南大泉図書館の全職員がそろう。とりあえず館内の床に散乱している図書その他をポケットパークに出し、倒れてしまつて通路をふさいでいる書架や新聞架などを起こす作業を最優先にする。次にフロアにたまっている水を外にかきだす作業を全員で行う。これは、なるべく早く床の水を取り除き、コルク床が変質して反つてしまわな

●9月5日(月)

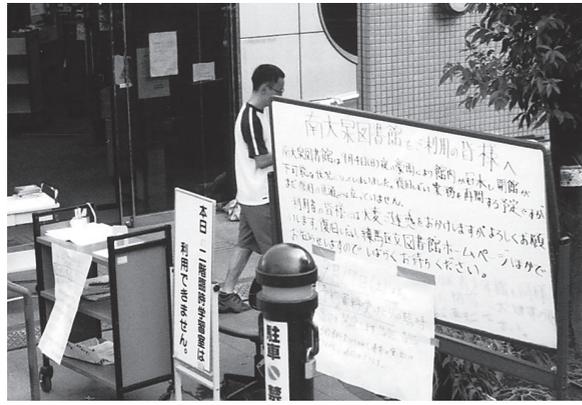
朝6時、館長から連絡網の電話が入る。「4日夜の大雨で館内が浸水し壊滅的状态、長期の休館を余儀なくされる。可能な職員は全員出勤して復旧作業にあたってもらいたい。」以上の内容だった。壊滅的とのことだが詳細がわからない。まだ寝ていたのだが、とりあえず用意をして出かける。図書館に着く前に長靴を購入。図書館の電話はつながらない状態になっている。

水害日誌

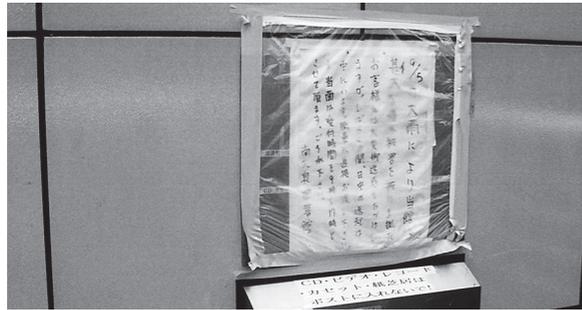
9月5日・6日

●山川正之

練馬区立南大泉図書館



被害1週間後お詫びの告知が書かれたホワイトボード。9月17日から予約受け取り窓口を再開するも、この時点では全体の復旧のめどはまだたらず



返却ポスト。返却のみ被害後も受け付けていた



11月に再開するまでは、運行終了した移動図書館の蔵書や、区民、区内他館からの寄贈、廃棄図書を受け入れにより図書・資料を賄った

復旧作業中。被害翌日から他館より多くの応援が駆けつける



コミュニティホールに山積みされる汚損資料。処分された蔵書は最終的に2トントラックのべ8台にまでなった



- 11月1日…図書館再開
- 10月25日…蔵書点検
- 10月19日…端末セットアップ
- 10月中旬…書架および床面、壁面工事
- 9月下旬…選書再開
- 9月28日…予約受け取り窓口開始
- 9月17日…事務室使用再開
- 9月13日…汚損資料の廃棄
- 9月7日…館内の水の除去、汚損資料の廃棄準備
- 9月5日…
- 9月4日…22時…水害発生
- ▼被災から復旧までの約2ヶ月間

も完全に水没しているため、ほとんど全ての書類が水に濡れてしまっている。ファイリングキャビネット内の書類も同様。コピー機・FAX・シュレッダーは使用不能。電算システムも全て使用不能。都立中央をはじめ各区へ返却する本なども完全に水没している。新聞、取次ぎから来る見計らい用の新刊図書、雑誌など、毎日来る荷物、委託に出している装備中の図書などは、納品されても対応できないためとりあえず、それぞれで保管してもらうように連絡を取る。

●9月6日(火)
各館から応援職員がきてくれる。今日から本来は開館日。利用者に説明する内容を朝のミーティングで確認する。①当面臨時休館、②復旧のめどはたっていない、③予約資料の受け取りを他の館で希望する場合はその館に連絡してもらうこと、④取り置き期限がきても期限切れとはならない、などの対応を打ち合わせる。

によつては、きつめに入っていた本が雨水で濡れて膨らみ、書架からはずせなくなっている。当面の対応について夕方から打ち合わせ。臨時休館すること、被害のなかった2階青少年館も当面休館し、打ち合わせ、休憩、その他の場所にする。予約棚にあったものも半分近く冠水して使えなくなっているため、リストを送ってもらい、OKなものだけだめなもの調査、なるべく早くデータに反映すること、当面南大泉図書館行きの回送資料は練馬図書館にまとめてストックしておいてもらうこと、予約受け取り窓口をなるべく早期に開設することなどを打ち合わせる。